

「平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震」について (第 27 報)

○余震活動等の状況

余震は、岩手県沖から茨城県沖の広い範囲で発生しています。昨日 (23 日 12 時) から本日 (24 日 12 時) までに、M6.0 以上の余震は 0 回、M5.0 以上の余震は 3 回発生し、これまでに発生した余震は、M7.0 以上は 3 回、M6.0 以上は 59 回、M5.0 以上は 347 回です。(注：余震回数は速報値で、後日の調査で変更になることがあります。)

○余震の見通しについて

余震は、次第に少なくなってきましたが、未だ活発な状況です。余震は、広い範囲で発生しているため、同じ規模の余震であっても、発生する場所により各地での震度は異なります。

今後、震源地に近いところで最大震度 5 弱以上となる地震が発生する可能性があります。場合によっては、震度 6 弱～6 強となる余震が発生する可能性もありますので警戒して下さい。

○防災上の留意事項

揺れの強かった地域では、土砂災害や家屋の倒壊などの危険性が高まっていますので、余震による強い揺れに引き続き警戒してください。

復旧活動など屋外で行動する場合は、余震の揺れによって二次災害のおそれがありますので、十分に安全を確認して行動するよう心がけてください。

また、大きな余震が発生すると津波が発生する可能性があります。海岸で強い揺れを感じた場合、また、揺れを感じなくても津波警報や津波注意報が発表された場合には、直ちに海岸から離れ高台等の安全な場所に避難してください。

(添付資料：震度回数表、余震回数比較図、余震発生状況、参考資料)

本件に関する問い合わせ先

気象庁地震火山部 地震予知情報課 (内線 4721、4724)
地震津波監視課 (内線 4559)

平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(平成23年3月11日14時～)

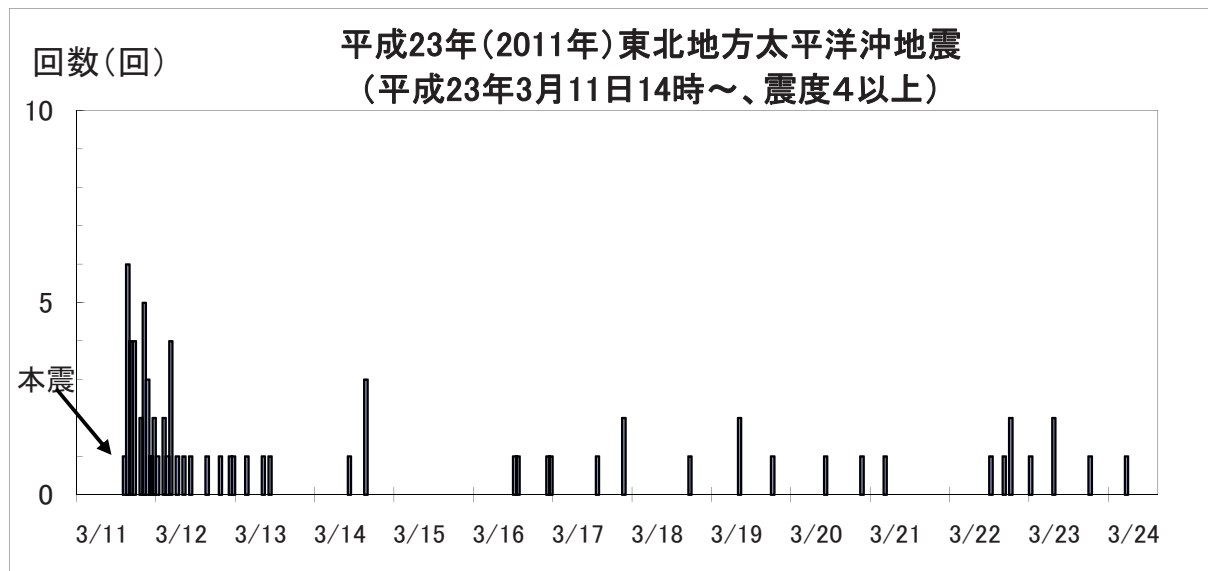
震度4以上の最大震度別地震回数表(本震を含む)

※この資料は速報値であり、本震発生直後や障害中の震度計のデータが反映されていません。
日別回数

期間	最大震度別回数						震度4以上を観測した回数		備考
	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
3/11 14:00-24:00	22	2	2	1	0	1	28	28	震度7は本震
3/12 00:00-24:00	14	1	0	0	0	0	15	43	
3/13 00:00-24:00	2	1	0	0	0	0	3	46	
3/14 00:00-24:00	3	1	0	0	0	0	4	50	
3/15 00:00-24:00	0	0	0	0	0	0	0	50	
3/16 00:00-24:00	3	1	0	0	0	0	4	54	
3/17 00:00-24:00	3	0	0	0	0	0	3	57	
3/18 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	1	58	
3/19 00:00-24:00	2	0	1	0	0	0	3	61	
3/20 00:00-24:00	2	0	0	0	0	0	2	63	
3/21 00:00-24:00	1	0	0	0	0	0	1	64	
3/22 00:00-24:00	4	0	0	0	0	0	4	68	
3/23 00:00-24:00	1	0	3	0	0	0	4	72	
3/24 00:00-15:00	1	0	0	0	0	0	1	73	
総計	59	6	6	1	0	1	-	73	

3月24日の時間別回数

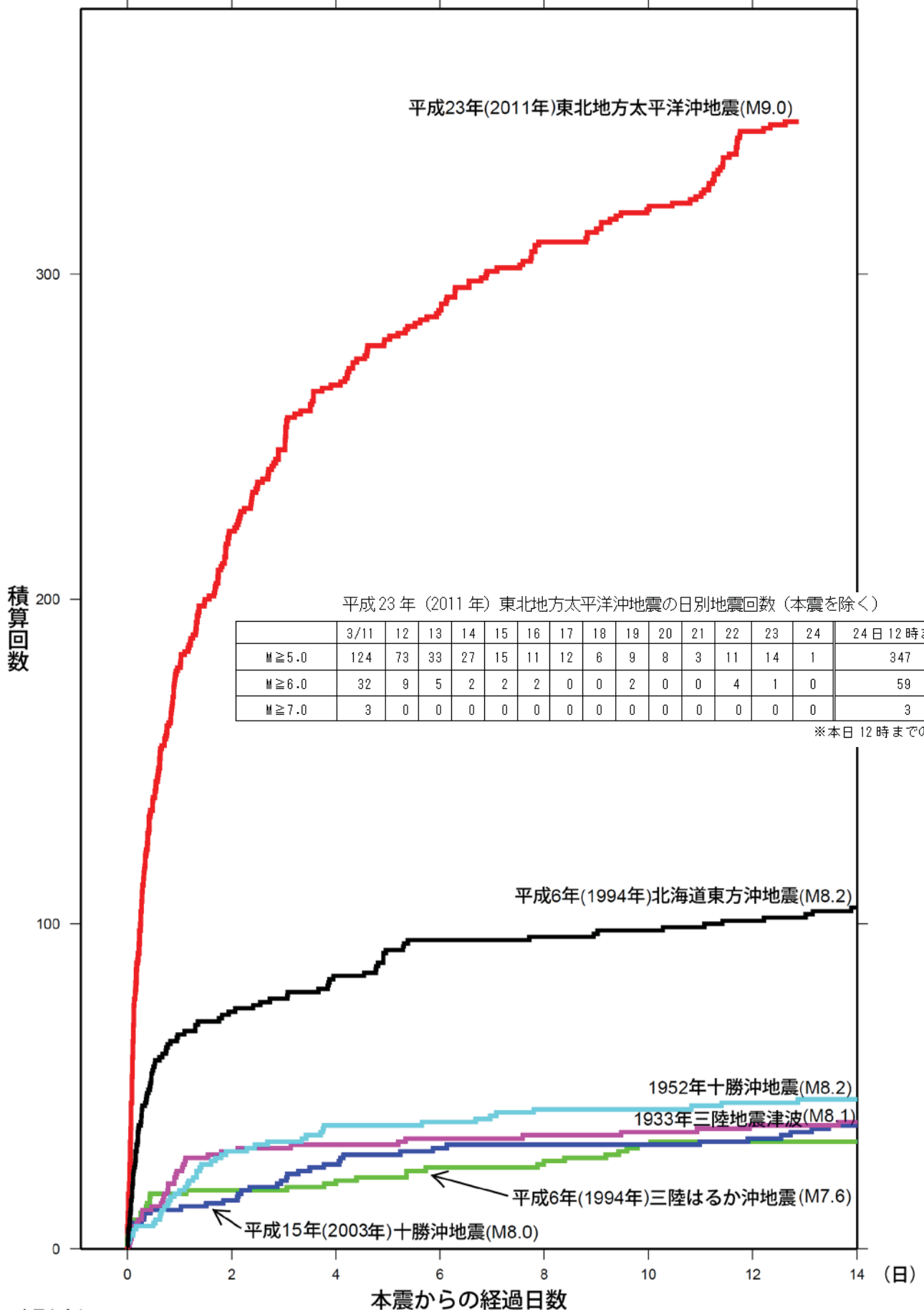
時間帯	最大震度別回数						震度4以上を観測した回数		備考
	4	5弱	5強	6弱	6強	7	回数	累計	
00:00-01:00							0	72	
01:00-02:00							0	72	
02:00-03:00							0	72	
03:00-04:00							0	72	
04:00-05:00							0	72	
05:00-06:00	1						1	73	
06:00-07:00							0	73	
07:00-08:00							0	73	
08:00-09:00							0	73	
09:00-10:00							0	73	
10:00-11:00							0	73	
11:00-12:00							0	73	
12:00-13:00							0	73	
13:00-14:00							0	73	
14:00-15:00							0	73	
日累計	1	0	0	0	0	0	1	-	
総計	59	6	6	1	0	1	-	73	



※ 3/16の地震回数を訂正しています。

海域で発生した主な地震の余震回数比較（※本震を含む） （マグニチュード5.0以上）

2011年03月24日12時00分現在



※本震を含む。

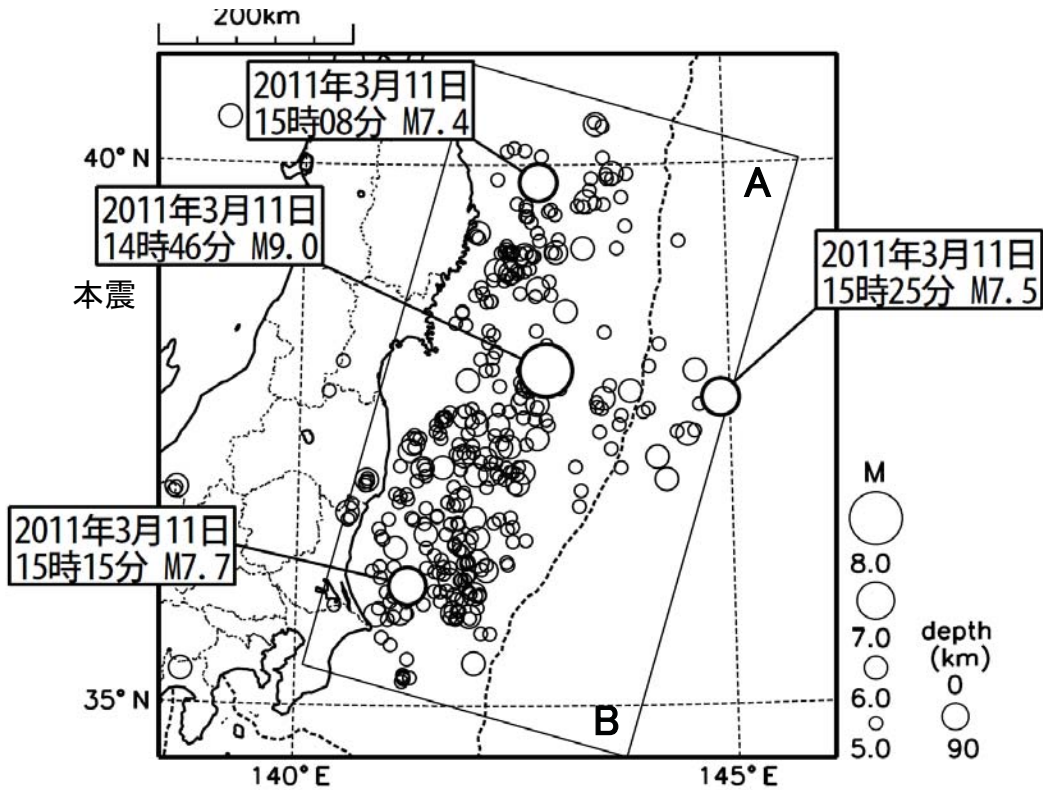
※この資料は速報値であり、後日の調査で変更することがあります。

気象庁作成

平成 23 年 (2011 年) 東北地方太平洋沖地震 余震の発生状況

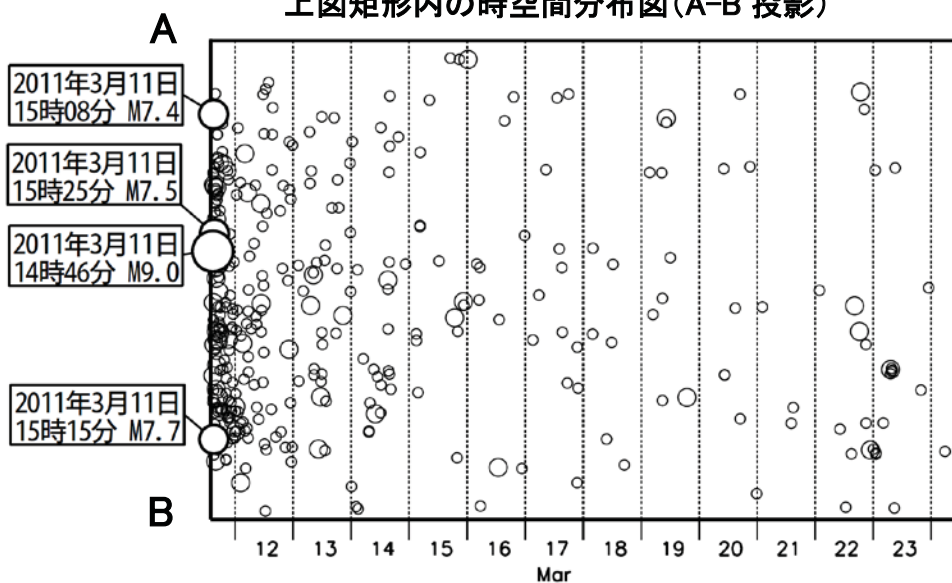
震央分布図

(2011 年 3 月 11 日 12 時 00 分 ~ 24 日 12 時 00 分、深さ 90km 以浅、 $M \geq 5.0$)



丸の大きさはマグニチュードの大きさを表す。
M7.0 以上の地震に吹き出しをつけている。

上図矩形内の時空間分布図(A-B 投影)



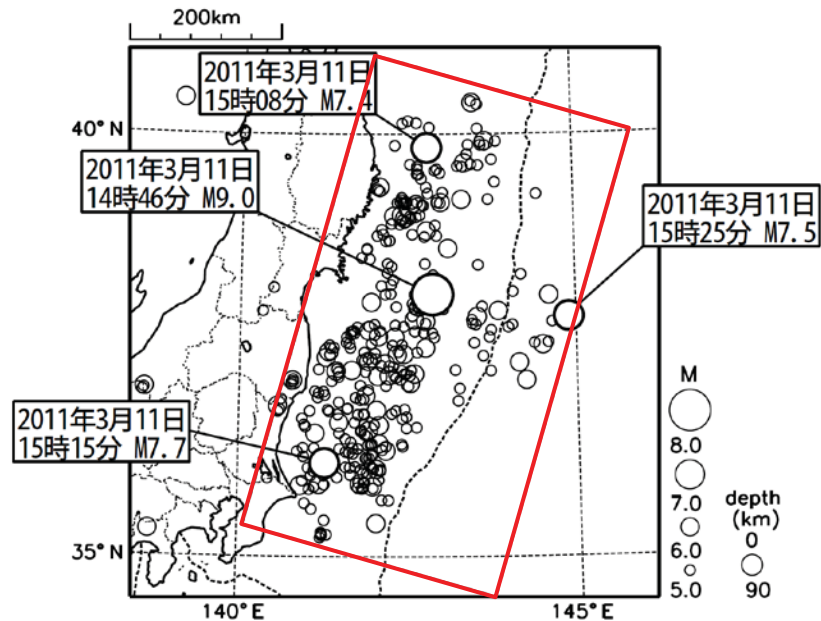
横軸は時間、縦軸は上図の A-B の範囲を示す。
発生した時刻にマグニチュードの大きさに対応した丸を示した。

○余震回数を数える領域について

東北地方太平洋沖地震（M9.0）の余震について、速報として余震回数を数える領域は以下の赤枠のとおりとしています。

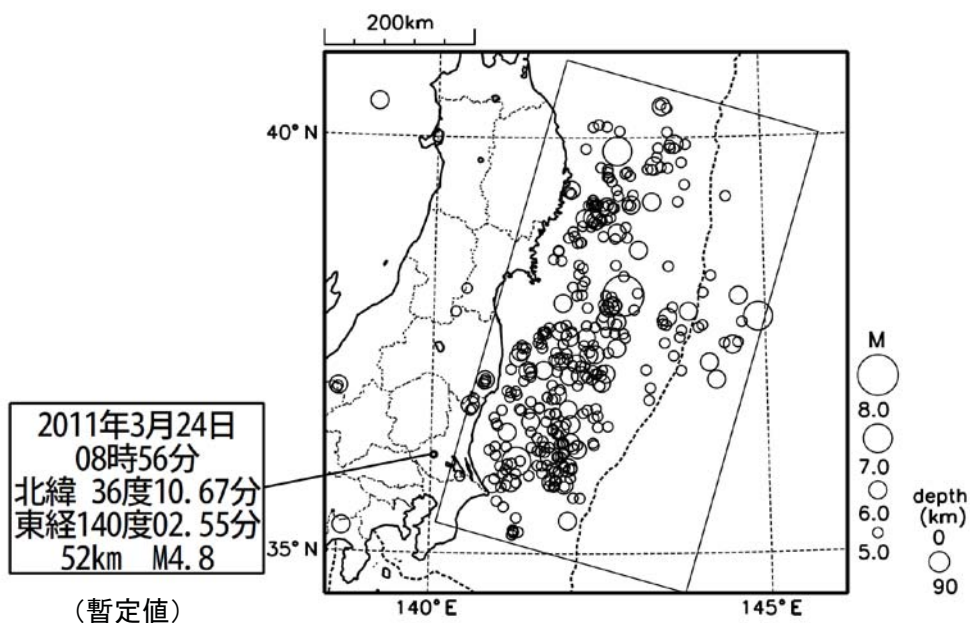
この領域には、震源断層であるプレート境界で発生している余震の他、その領域に空間的に近い太平洋プレート内・陸側のプレート内の地震および、海溝軸の東側の地震、震源域に近い陸域の浅い地震も含まれています。これらの領域の活動は、本震後に活発になっています。

なお、茨城県南部および千葉県北西部の、定常的に発生している地震活動はこの領域に含まれていません。



(参考) 3月24日 08時56分の茨城県南部の地震について

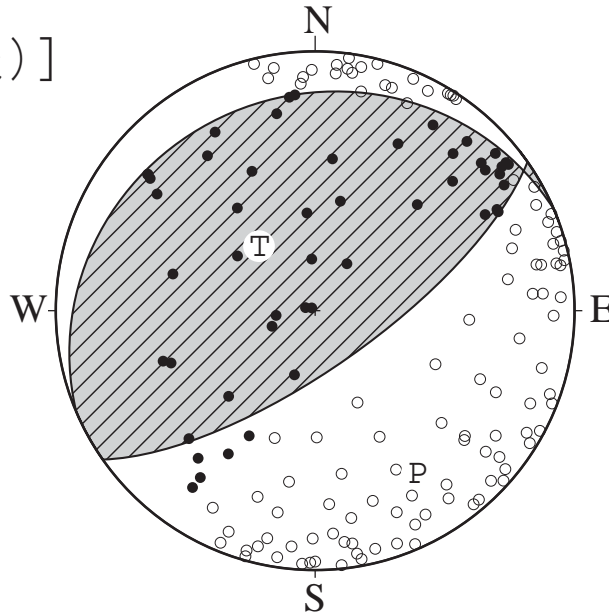
(この地震は、上記の余震回数を数える領域には含まれていません。)



2011年03月24日08時56分頃の地震の発震機構解 初動解(速報)

北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型

[初動解(速報)]

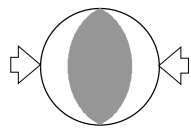


下半球等積投影法で描画
 P：圧力軸の方向
 T：張力軸の方向

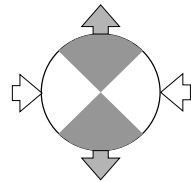
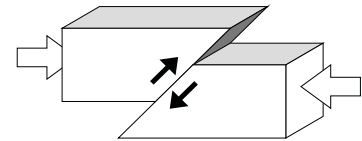
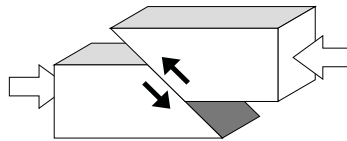
※ ●は初動が上向きの観測点、○は初動が下向きの観測点を示す。

発震機構解〔初動解〕について

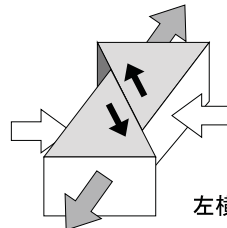
圧力軸に注目した場合の例



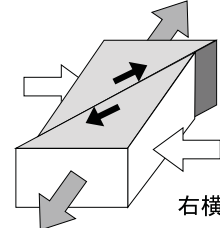
逆断層型



横ずれ断層型

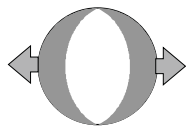


左横ずれ

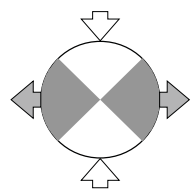
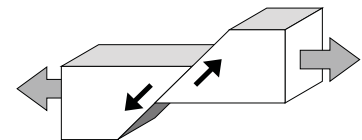
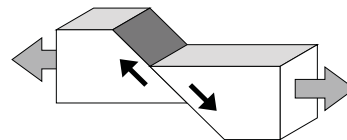


右横ずれ

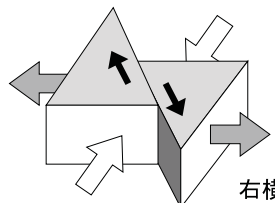
張力軸に注目した場合の例



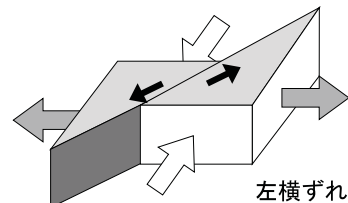
正断層型



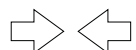
横ずれ断層型



右横ずれ



左横ずれ



圧力(押す力)



張力(引く力)



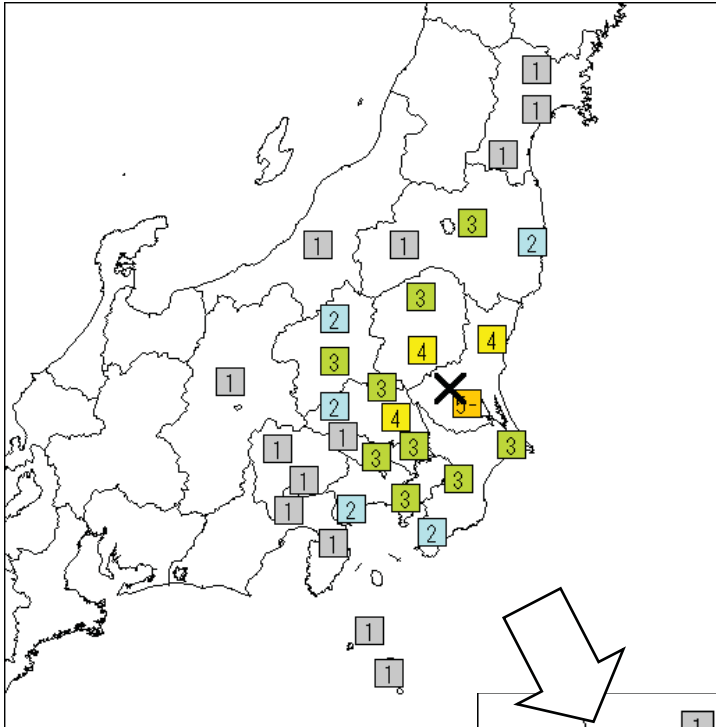
断層がずれる方向

本資料の問い合わせ先 地震予知情報課発震機構係(4577)

気象庁地震予知情報課作成

平成23年3月24日08時56分頃の茨城県南部の地震

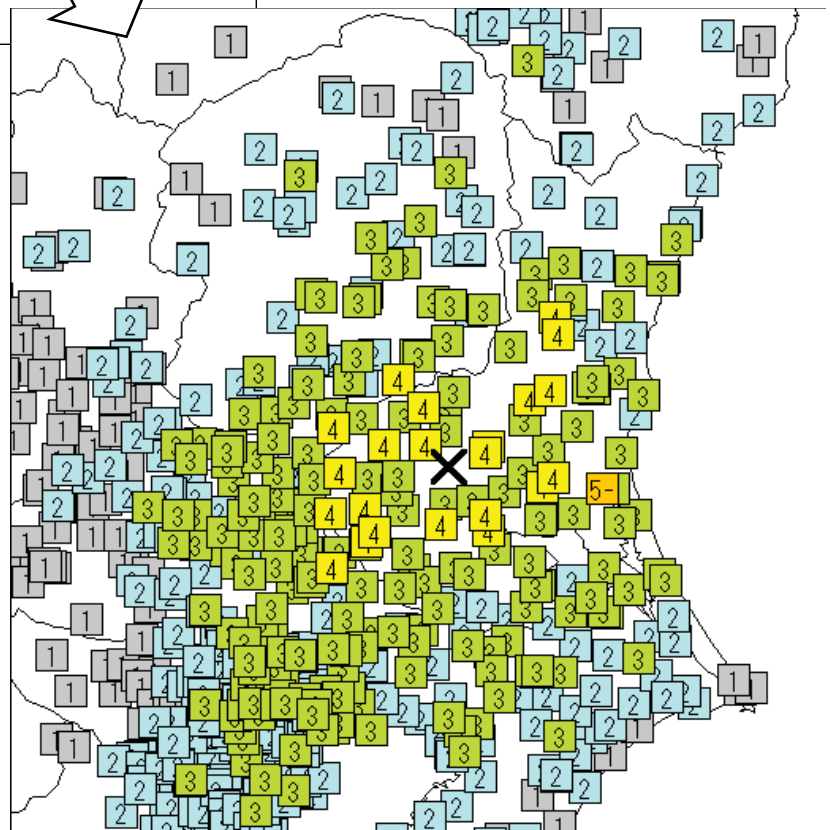
震度分布図



各地域の震度分布図

凡例	
7	震度 7
6+	震度 6強
6-	震度 6弱
5+	震度 5強
5-	震度 5弱
4	震度 4
3	震度 3
2	震度 2
1	震度 1

×:震央

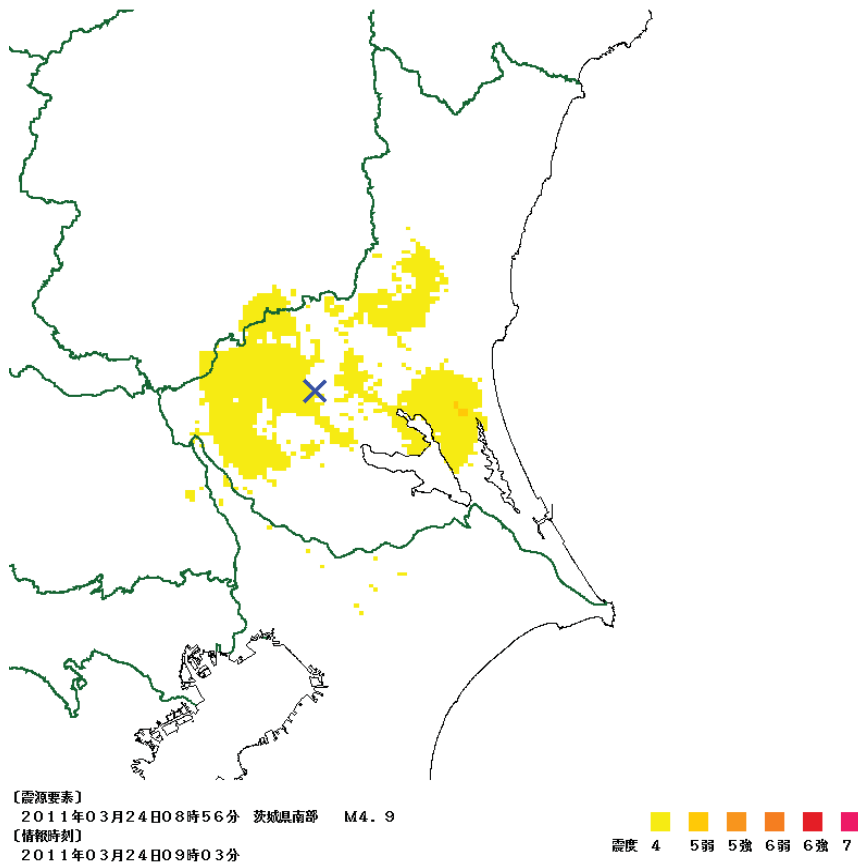


各観測点の震度分布図

2011年3月24日08時56分頃の茨城県南部の地震

推計震度分布図

0 672



【解説】

震度5弱の地域では、物が割れたり、ガラスが割れるなどの被害が発生している可能性があります。

<推計震度分布図利用の留意事項>

地震の際に観測される震度は、地盤の違いなどにより、ごく近い場所でも1階級程度異なることがあります。また、震度を推計する際の誤差などにより、推計された震度と実際の震度が1階級程度ずれることがあります。

推計震度分布図の利用にあたっては、個々のメッシュの位置や震度の値ではなく、大きな震度の面的な広がり具合とその形状に着目してご利用ください。

(参考)余震発生確率 (平成23年3月24日09時現在での推定)

現在までの余震発生状況から推定した余震発生確率は以下のとおりです。

	最大震度5強以上
3月24日12時から3日間以内	20%
3月27日12時から3日間以内	20%

* 地盤の悪いところではこれよりも震度が大きくなる場合があります。

注 仮に余震が内陸や沿岸部で発生した場合、これよりも震度が大きくなる場合があります

余震発生確率は地震活動の活発さの目安ですが、これは現在までの余震発生状況から推定したもので、今後の活動の変化によって変わる可能性があります。

なお、上記の数値はM7.0以上の余震が発生する可能性をもとに計算したのですが、「マグニチュード7以上」の表現ではわかりにくいとの指摘がありますので、最大震度による表現にしております。

- 余震発生確率を算出するにあたっての前提

これまでの地震活動の推移から、本震—余震型であることを前提として、余震発生確率を算出しています。

- 本震—余震型の特徴

本震—余震型の地震活動では、最初に最も規模の大きい本震が発生し、それに続いて余震が多数発生します。余震の発生数は大局的には時間とともに徐々に減少していきます。ただし、余震の減少の仕方は様々で、単調に減少していくこともあります。場合によっては減少していく過程で増減を繰り返すこともあります。

- 余震発生確率の意味

ある大きさの余震に注目した場合に、その大きさの余震が、ある時点からある期間内に発生する確率を余震発生確率と言います。例えば、マグニチュード7.0以上の余震がある時点から3日間以内に発生する確率が10%である場合、3日間以内にマグニチュード7.0以上の地震が必ず発生するとは評価されませんが、全く発生するおそれはないという評価でもありません。同様な地震活動の場合、10回発表したうちの1回は3日間以内にマグニチュード7.0以上の余震が発生するという意味です。

なお、余震発生確率10%という確率は低いように思えますが、平常時、東北地方から関東地方の太平洋沿岸および沖合の地域で、マグニチュード(M)7.0以上の地震が3日以内に発生する確率は0.2%程度です。

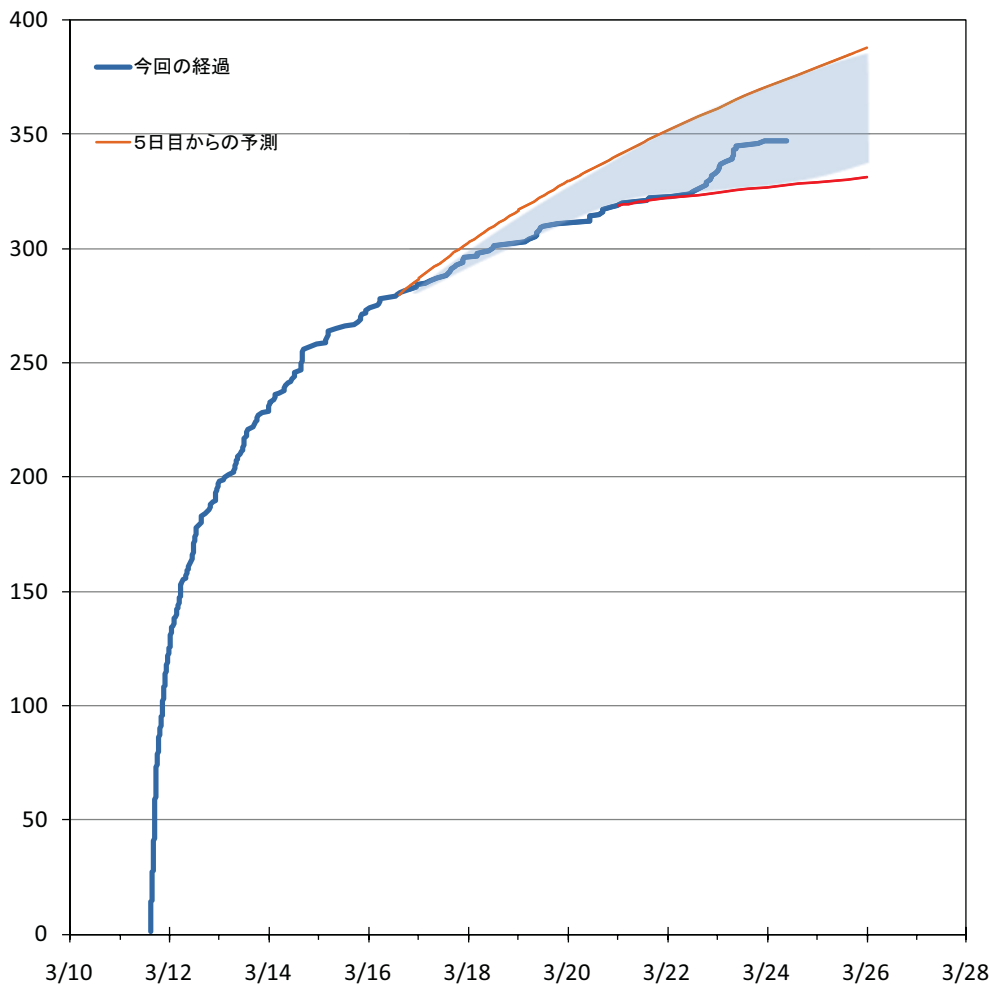
問い合わせ先： 気象庁地震火山部地震予知情報課 内線 4721、4724

(参考)余震回数予測 (平成23年3月23日09時現在での推定)

現在までの余震発生状況から推定した余震回数予測は以下のとおりです。

	M5.0以上の余震回数
3月23日00時から25日24時まで(3日間)	10~20回程度 (多い場合40回程度)

M \geq 5.0の
余震回数



余震回数予測図 (M \geq 5.0)

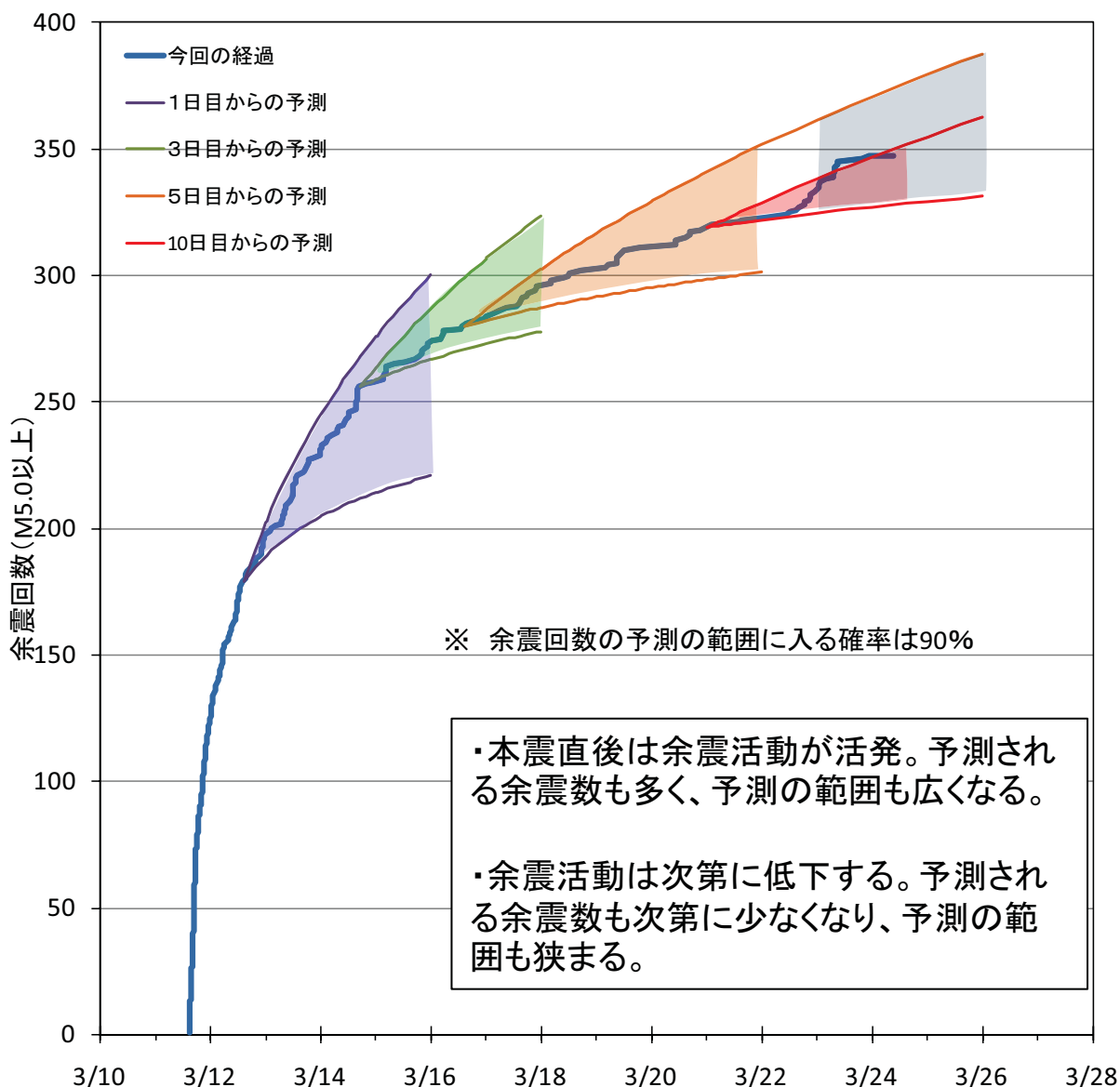
予測について

本震—余震型の地震活動では、本震直後に多数の余震が発生し、その後、増減を繰り返しながらも、大局的には、時間とともにほぼ同じ割合で余震は減っていきます。

余震の時間的な推移については、現在の減衰状況が今後も続くと仮定し、幅をもって予測回数を示しています。その予測値の範囲に入る確率は90%です。

この予測は、地震調査委員会によって取りまとめられた「余震活動の予測手法」に基づく。

(参考) 今回の余震活動の経過と予測の検証 (M5.0以上)



予想期間	予想回数	観測値(23日現在速報値)
3月13日～15日(3日間)	50回程度 (多い場合 90回程度)	75回
3月15日～17日(3日間)	30～40回程度 (多い場合 60回程度)	38回
3月18日～21日(4日間)	20～30回程度 (多い場合 50回程度)	26回
3月22日～24日(3日間)	10～20回程度 (多い場合 30回程度)	(26回) ※
3月23日～25日(3日間)	10～20回程度 (多い場合 40回程度)	

※ 括弧内は予想期間途中までの観測値